

生活交通に関する 市民アンケート調査の結果

1 調査の目的

この調査は、本市の生活交通の現状と今後の対応についての意見を把握し、市民交通計画策定の基礎資料とするために実施した。

2 調査対象者

平成18年5月25日現在において、山口市に住所がある15歳以上の市民約5,000人を無作為抽出。

3 調査期間

平成18年6月2日に郵便で発送。6月30日到着分までを集計分析した。

平成18年9月

山口市

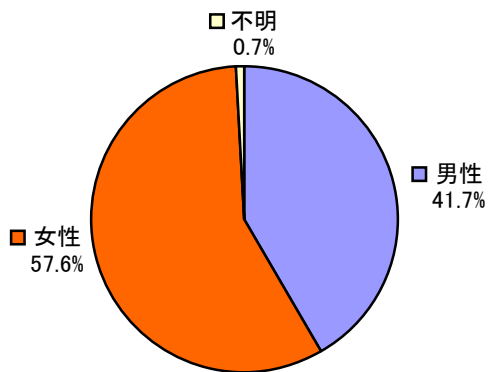
目 次

1	回収結果について	1～2
2	山口市の公共交通（バスや鉄道など）や移動手段などについて	
	（1）公共交通機関の便利さ	3～4
	（2）バス停または駅までの距離	5
	（3）最も利用している交通手段	6～7
3	公共交通の維持・確保について	
	（1）費用負担のあり方	8
	（2）維持すべき理由	9
	（3）維持する負担方法	10
4	山口市が行っているバスの運行について	
	（1）認知度および利用頻度	11
	（2）利用したことのあるバスの種類	12
	（3）運行に対する意見	13
	（4）「継続」あるいは「拡大」を希望する理由	14
	（5）「中止」あるいは「経営改善」を希望する理由	15
	（6）望ましい運賃	16
	（7）運行を維持・拡大するためのアイデア等	17～18
5	公共交通に対する意見・提案	19
資料編		
	生活交通に関する市民アンケート調査票	20～24
	山口市が行っているバス事業の概要	25

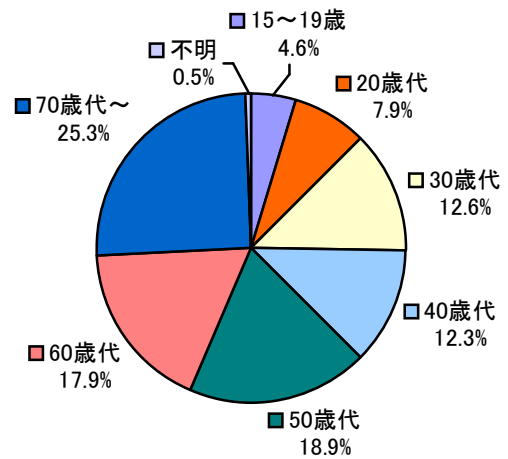
1 回収結果について

発送数	5,032人
転出等による返却	32人
対象者数	5,000人
回収数	2,151人
回収率	43.0%

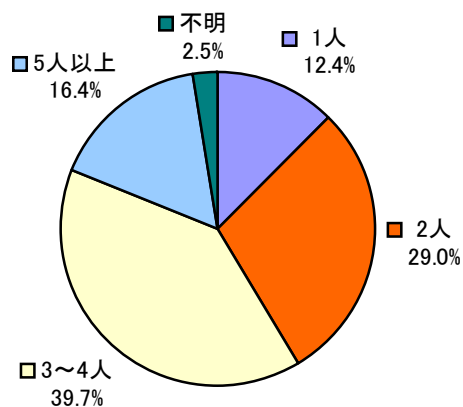
性別



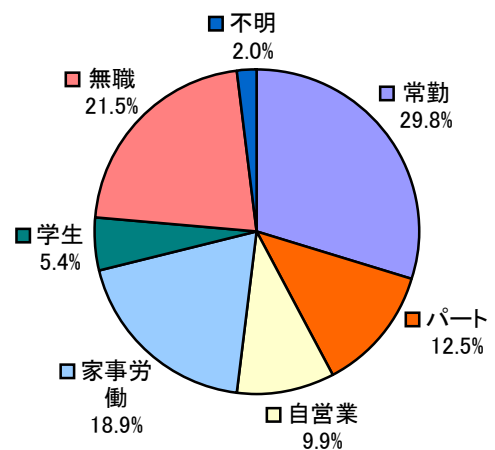
年齢



同居家族数



就業・就学



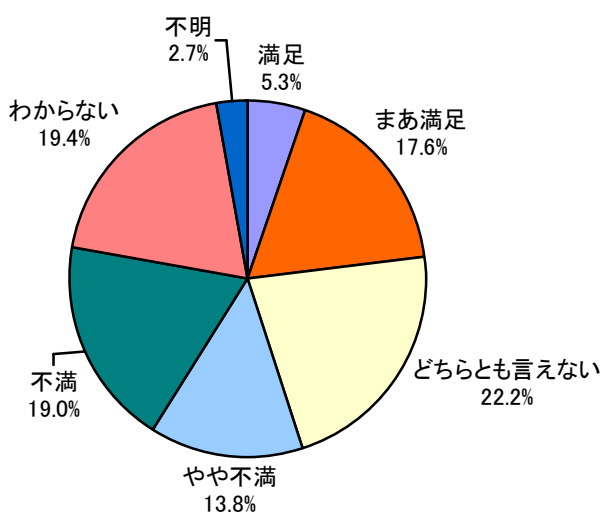
地区別回収数・回収率

地区	地区人口	対象者数	回収数	回収率
仁保	3,360	105	50	47.6%
小鯖	4,402	138	62	44.9%
大内	18,177	569	224	39.4%
宮野	13,050	406	178	43.8%
大殿	7,393	230	108	47.0%
白石	8,606	269	120	44.6%
湯田	10,889	343	147	42.9%
吉敷	11,762	369	169	45.8%
平川	13,124	409	140	34.2%
大歳	10,416	325	121	37.2%
陶	2,354	74	29	39.2%
鑄銭司	2,807	88	43	48.9%
名田島	1,469	46	12	26.1%
秋穂二島	2,587	81	36	44.4%
嘉川	6,442	202	104	51.5%
佐山	2,589	80	37	46.3%
山口地域計	119,427	3,734	1,580	42.3%
小郡	19,430	607	243	40.0%
秋穂	7,001	219	84	38.4%
阿知須	7,783	243	108	44.4%
堀	2,996	94	48	51.1%
島地	1,552	48	28	58.3%
八坂	1,848	58	26	44.8%
柚木	468	15	12	80.0%
串	456	14	10	71.4%
徳地地域計	7,320	229	124	54.1%
不明	-	-	12	-
合計	160,961	5,000	2,151	43.0%

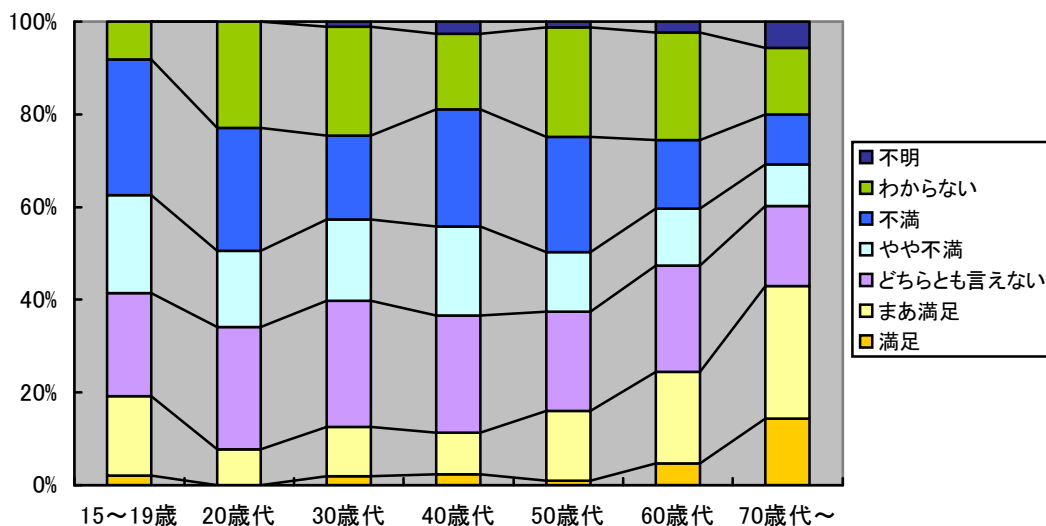
2 山口市の公共交通（バスや鉄道など）や移動手段などについて

(1) 公共交通機関の便利さ …問1

山口市の公共交通機関の便利さについては、「満足」と「まあ満足」を合わせた満足度（22.9%）が、「不満」と「やや不満」を合わせた不満度（32.8%）を下回っており、3人に1人が市内の公共交通に対して何らかの不満を持っているという結果になった。



年代別に比較すると、50歳代までは公共交通機関に不満を感じている人が多く、不満度が満足度を上回ったが、60歳代では両者の割合が接近し、70歳代以上では満足度（42.9%）が不満度（19.8%）を上回る結果となった。このことから、年代が増加するに従い、満足度が高くなる傾向にあることがわかる。

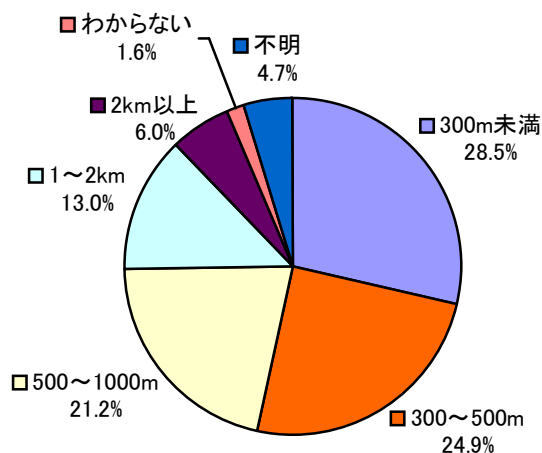


なお、不満と答えた人の意見としては、利便性に対する指摘が多く、「バス・列車の本数が少ない」、「目的地まで行くのに不便」、「運行経路や時刻がわかりにくい」、「乗り継ぎ、連絡が悪い」、「バスの最終便が早い」、「遠回りをするので疲れる」、「バス停留所までが遠い」、「バスの運行自体が無い」、「バス料金が低い」「地域格差がある」などがあった。

(2) バス停または駅までの距離 …問2

自宅から最寄りのバス停またはJR駅までの距離については、500m未満とする回答が全体の約5割（53.4%）で、500m以上とする回答が約4割（40.2%）であった。

この傾向は、年代別においてもほぼ同様であったが、地域別で見ると偏りがあった。500m以上とする回答の多い地区としては、鑄銭司（69.8%）、阿知須（63.0%）、串（60.0%）、陶（55.2%）、仁保（54.0%）が挙げられ、これらの地区は公共交通の利用が不便な状況にあると推測される。



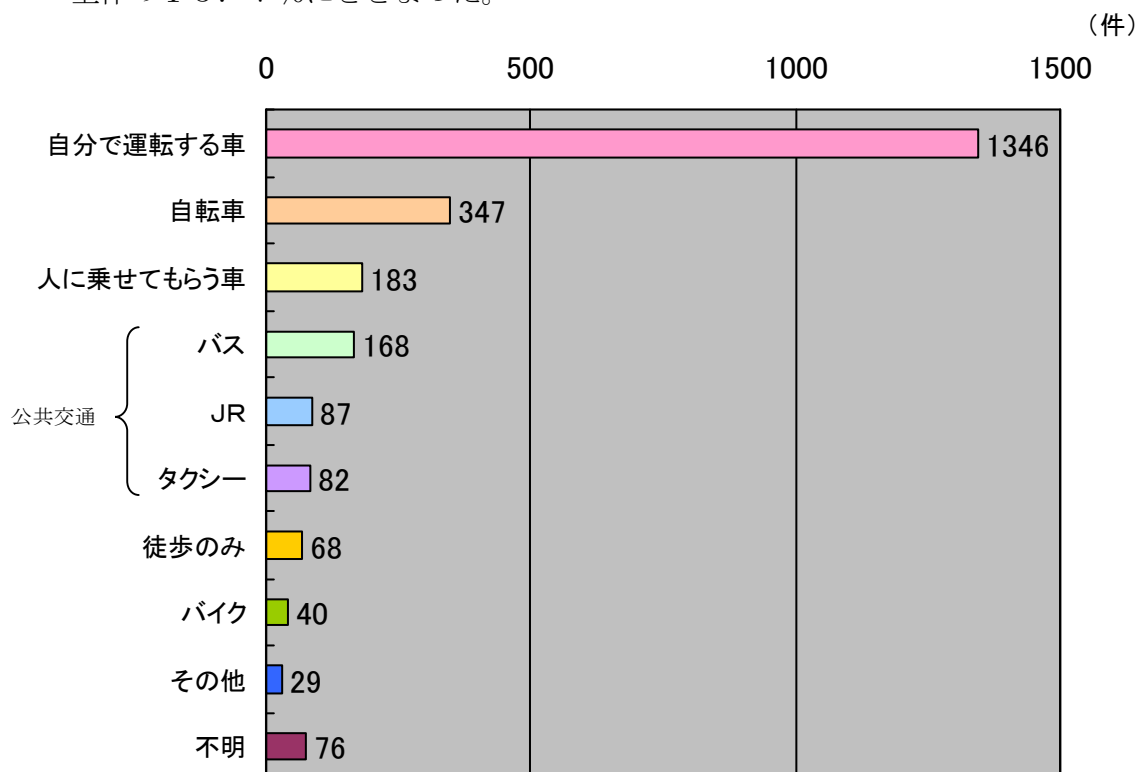
地域	回答総数	500m未満 (回答数/比率)		500m以上 (回答数/比率)	
		回答数	比率	回答数	比率
仁保	50	20	40.0%	27	54.0%
小鯖	62	39	62.9%	21	33.9%
大内	224	119	53.1%	92	41.1%
宮野	178	92	51.7%	77	43.3%
大殿	108	69	63.9%	32	29.6%
白石	120	81	67.5%	30	25.0%
湯田	147	88	59.9%	52	35.4%
吉敷	169	109	64.5%	54	32.0%
平川	140	79	56.4%	56	40.0%
大歳	121	64	52.9%	51	42.1%
陶	29	9	31.0%	16	55.2%
鑄銭司	43	9	20.9%	30	69.8%
名田島	12	9	75.0%	2	16.7%

地域	回答総数	500m未満 (回答数/比率)		500m以上 (回答数/比率)	
		回答数	比率	回答数	比率
秋穂二島	36	19	52.8%	14	38.9%
嘉川	104	51	49.0%	50	48.1%
佐山	37	19	51.4%	16	43.2%
小郡	243	110	45.3%	118	48.6%
秋穂	84	51	60.7%	22	26.2%
阿知須	108	36	33.3%	68	63.0%
堀	48	30	62.5%	11	22.9%
島地	28	17	60.7%	6	21.4%
八坂	26	16	61.5%	7	26.9%
柚木	12	7	58.3%	3	25.0%
串	10	4	40.0%	6	60.0%
不明	12	3	25.0%	4	33.3%
合計	2,151	1,150	53.4%	865	40.2%

(3) 最も利用している交通手段 …問3 (複数回答可)

日ごろ最もよく利用する交通手段としては、「自分で運転する車」とする回答が1,346件で全体の6割を超え、自家用車への依存の高さがわかる。

一方、公共交通(バス、JR、タクシー)とする回答は、合わせて337件で全体の15.7%にとどまった。



年代別に比較すると、運転免許の保有者数が少ない15～19歳では「自転車」とする回答が53.5%と過半数を超えた。次に多いのは「JR」の30.3%であったが、「バス」については3.0%にとどまった。これは、通学時の公共交通機関として鉄道を利用する学生が多いためと思われる。

運転免許保有者の割合が多くなる20歳代以上では、20～50歳代で「自家用車」の利用が平均で8割程度と大きな割合を占め、60歳代では約6割となった。70歳代以上を見ると、「自家用車」の利用が33.6%まで低下し、「バス」が19.6%、「タクシー」が11.6%と利用が増えているが、「JR」については2.9%にとどまった。このことから、高齢者にとっては、「バス」「タクシー」が重要な交通手段となっていることがわかる。

年齢	回答 総数	徒歩	自転車	バイク	自分で運 転する車	人に乗せて もらう車	バス	タクシー	JR	その他	不明
15～19 歳	99	4 (4.0%)	53 (53.5%)	2 (2.0%)	9 (9.1%)	6 (6.1%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	30 (30.3%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)
20 歳代	170	0 (0.0%)	27 (15.9%)	3 (1.8%)	127 (74.7%)	9 (5.3%)	3 (1.8%)	0 (0.0%)	7 (4.1%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
30 歳代	272	8 (2.9%)	28 (10.3%)	4 (1.5%)	238 (87.5%)	1 (0.4%)	3 (1.1%)	1 (0.4%)	5 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
40 歳代	265	2 (0.8%)	22 (8.3%)	3 (1.1%)	224 (84.5%)	3 (1.1%)	6 (2.3%)	2 (0.8%)	10 (3.8%)	1 (0.4%)	5 (1.9%)
50 歳代	406	6 (1.5%)	47 (11.6%)	7 (1.7%)	334 (82.3%)	14 (3.4%)	13 (3.2%)	2 (0.5%)	9 (2.2%)	0 (0.0%)	8 (2.0%)
60 歳代	384	10 (2.6%)	67 (17.4%)	11 (2.9%)	231 (60.2%)	43 (11.2%)	30 (7.8%)	14 (3.6%)	9 (2.3%)	10 (2.6%)	16 (4.2%)
70 歳代～	545	37 (6.8%)	101 (18.5%)	10 (1.8%)	183 (33.6%)	106 (19.4%)	107 (19.6%)	63 (11.6%)	16 (2.9%)	15 (2.8%)	43 (7.9%)
不明	10	1 (10.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	2 (20.0%)
合計	2151	68 (3.2%)	347 (16.1%)	40 (1.9%)	1346 (62.6%)	183 (8.5%)	168 (7.8%)	82 (3.8%)	87 (4.0%)	29 (1.3%)	76 (3.5%)

(上段：件数、下段：年代別構成比)

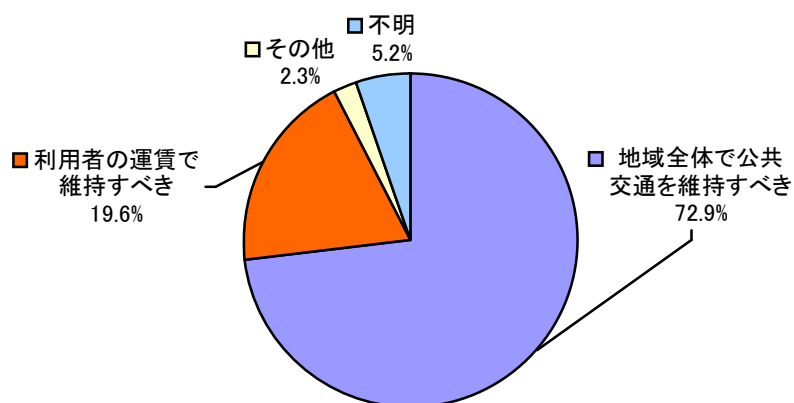
3 公共交通の維持・確保について

(1) 費用負担のあり方 …問4

日常生活に必要な公共交通を維持・確保するための費用負担については、「利用する・しないに関わらず、地域全体で公共交通の維持を図るべきである」とする回答が7割以上を占めた。

一方、「利用者の運賃で維持すべきであり、利用者が減少すればサービスの低下や路線の廃止もやむを得ない」とする回答は2割程度であった。

地域別、年代別の集計においても、ほぼ同様の分布傾向を示し、地域・年代の違いを問わず、多くの市民が地域全体で公共交通を維持・確保すべきであると考えていることがわかる。

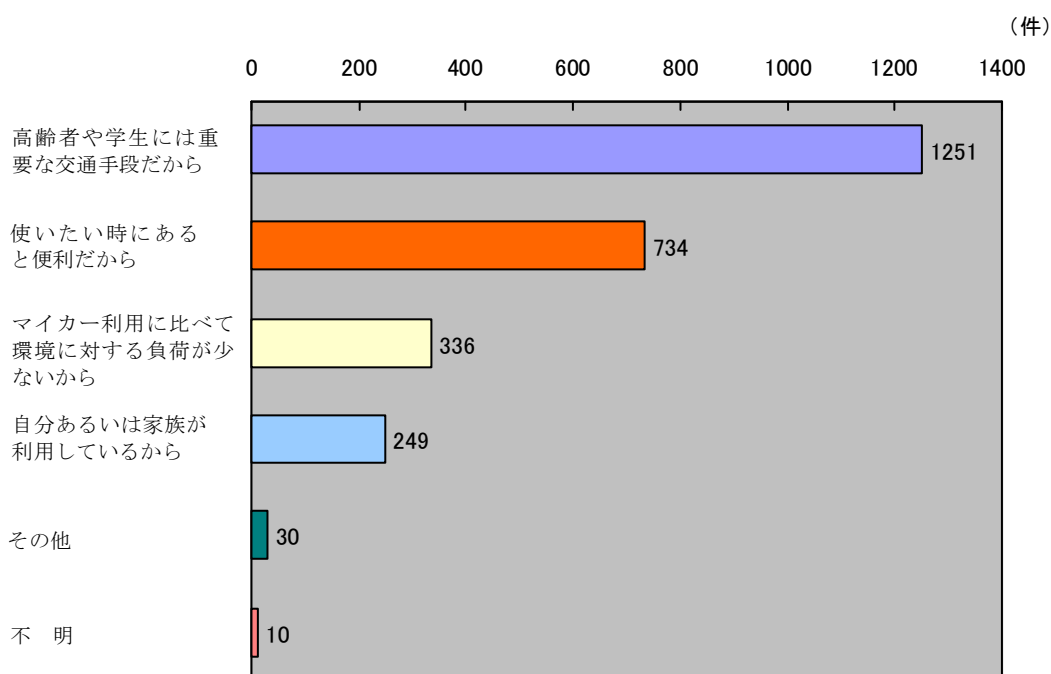


その他の意見としては、「利用者のみでも困るが、税金でも不平不満が出る。経営努力で維持・確保されると良い」「利用者の増加を図る」といった経営努力についての意見とともに、「受益者負担と税による公益負担の両方を考慮しながら、公共交通としての維持を図る必要がある」、「利用者70%、地域30%位で負担」など負担のバランスについての意見がいくつかあった。

(2) 維持すべき理由 …問5 (複数回答可)

(1) で「地域全体で公共交通の維持を図るべきである」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、「高齢者や学生には重要な交通手段だから」とする回答が過半数を超え、次に「日ごろは使っていないなくても、使いたい時にあると便利だから」という回答が続いた。この傾向は、地域別、年代別の集計においてもほぼ同様であった。

このことから、公共交通を日常的に利用していない人も含め、交通弱者等の移動手段として、公共交通を望んでいることがわかる。



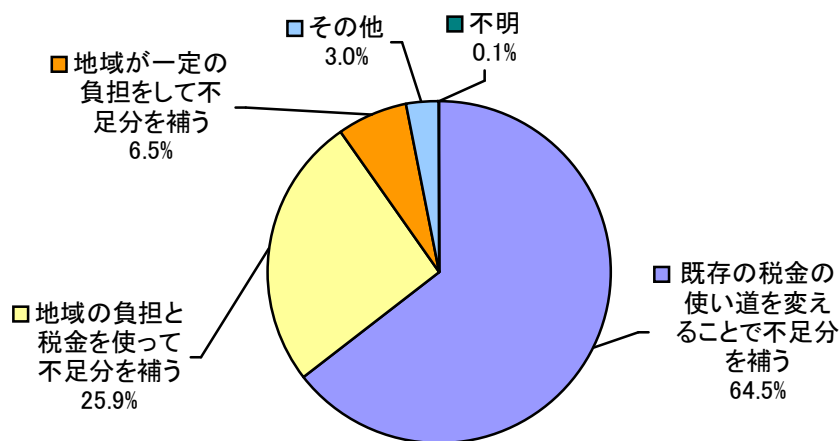
その他の意見としては、「交通緩和のために必要である」、「交通事故の減少及び地域の活性化のため」、「高齢者になり自分で車が運転できなくなった時に必要である」、「公共交通なくしては、まちの発展は考えられない」、「まちづくりの重要な要素である。自家用車社会が進むと、街の発展が無秩序に進んでしまう」、「自分で車を運転できない交通弱者対策として、行政、市民が一体となって維持していくべき」、「県外者など他にも必要とする方がいる」、「飲酒した時に必要である」などがあつた。

(3) 維持する負担方法 …問6

同じく(1)で「地域全体で公共交通の維持を図るべきである」と回答した方に、その費用負担の方法を尋ねたところ、「既存の税金の使い道を変えることで不足分を補う」とする回答が過半数を超え、以下、「地域(沿線の住民や企業など)の負担と税金を使って不足分を補う」、「地域が一定の負担をして不足分を補う」が続いた。

このことから、公共交通の維持には肯定的だが、地域の追加負担より税金の使途を変えることで公共交通を維持するべきであるという意見が多いことがわかる。

この傾向は、地域別、年代別の集計においても同様であったが、年代別では、「既存の税金の使い道を変えることで不足分を補う」の比率は年代が上がるにつれて減少傾向にあり、70歳代以上では54.3%となっている。その一方で、「地域の負担と税金を使って不足分を補う」、「地域が一定の負担をして不足分を補う」の比率は増加傾向にあった。



その他の意見としては、「税金で不足分を補うことも必要だが、利用者の負担も仕方がない」、「各町内会で話し合い、各戸が負担する」「広告・宣伝収入など別の利益を確保する」、「小型化し所要経費の軽減を図る」、「税金を入れるべきではない」などがあった。

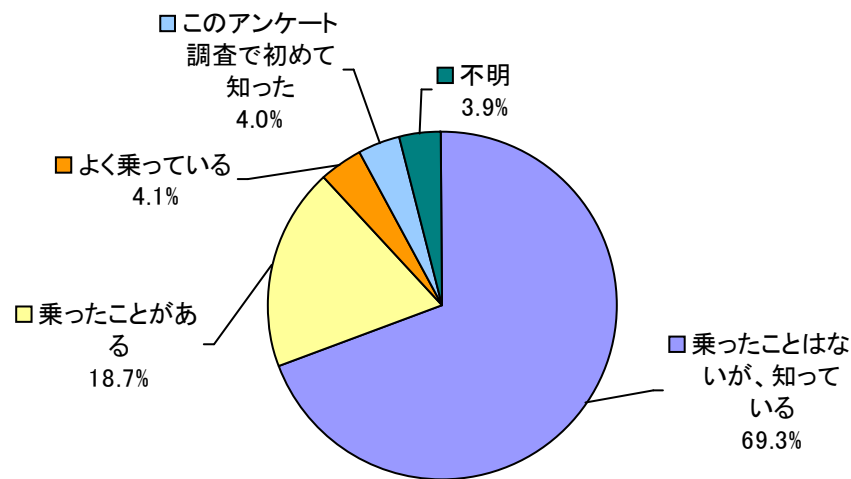
4 山口市が行っているバスの運行について

(1) 認知度および利用頻度 …問7

市が行っているバス（コミュニティバス・地域バス・生活バス）の認知度としては、「乗ったことはないが知っている」とする回答が全体の7割近くを占め、以下、「乗ったことがある」、「よく乗っている」が続いた。

「よく乗っている」とする回答を地域別に見ると、山口地域で4.7%、小郡地域で3.3%、秋穂地域で2.4%、阿知須地域0.9%、徳地地域で2.4%であった。特に、山口地域の佐山地区では高く（18.9%）、コミュニティバスが住民の身近な足として利用されていることがわかった。

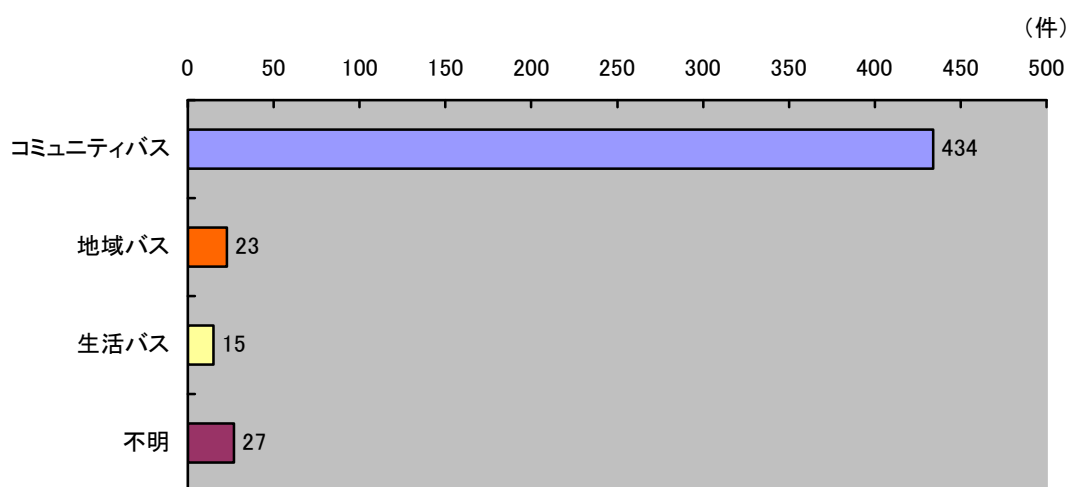
年代別に比較すると、「よく乗っている」とする回答の比率が最も高いのは、70歳代以上の世代（11.9%）で、その次に60歳代が高かった（3.6%）が、50歳代以下ではほとんど日常的な利用がなく、高齢者の移動手段として利用されていることがわかった。



(2) 利用したことのあるバスの種類 …問8 (複数回答可)

(1) で「乗ったことがある」、「よく乗っている」と回答した方に、乗ったことのあるバスの種類を尋ねたところ、「コミュニティバス」と回答した人の割合が88.4%と最も高かった。

地域別では、居住地域もしくはその近隣で運行しているバスを利用している傾向にあった。

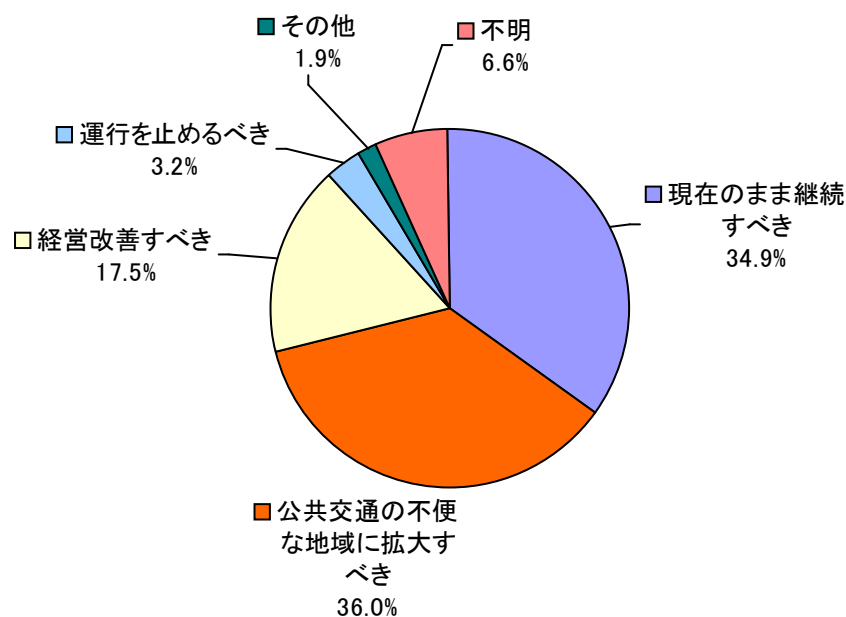


(3) 運行に対する意見 …問9

市が行っているバスの運行に対する意見としては、「現在のまま継続すべきと思う」と「公共交通の不便な地域へ運行を拡大すべきと思う」が同程度で、それぞれ全体の3分の1程度を占めた。続いて「経営改善すべきと思う」という回答が17.5%、「運行を止めるべきだ」と答えた人は3.2%であった。

このことから、路線バスや鉄道と同じく、市が行っているバスについても、多くの市民が必要性を認識し、継続的な運行もしくは拡充を望んでいることがわかる。

年代別に見ると、70歳代未満の世代では「公共交通の不便な地域へ運行を拡大すべきと思う」という回答が最も多く、70歳以上の世代では「現在のまま継続すべきと思う」という回答が最も多かった。

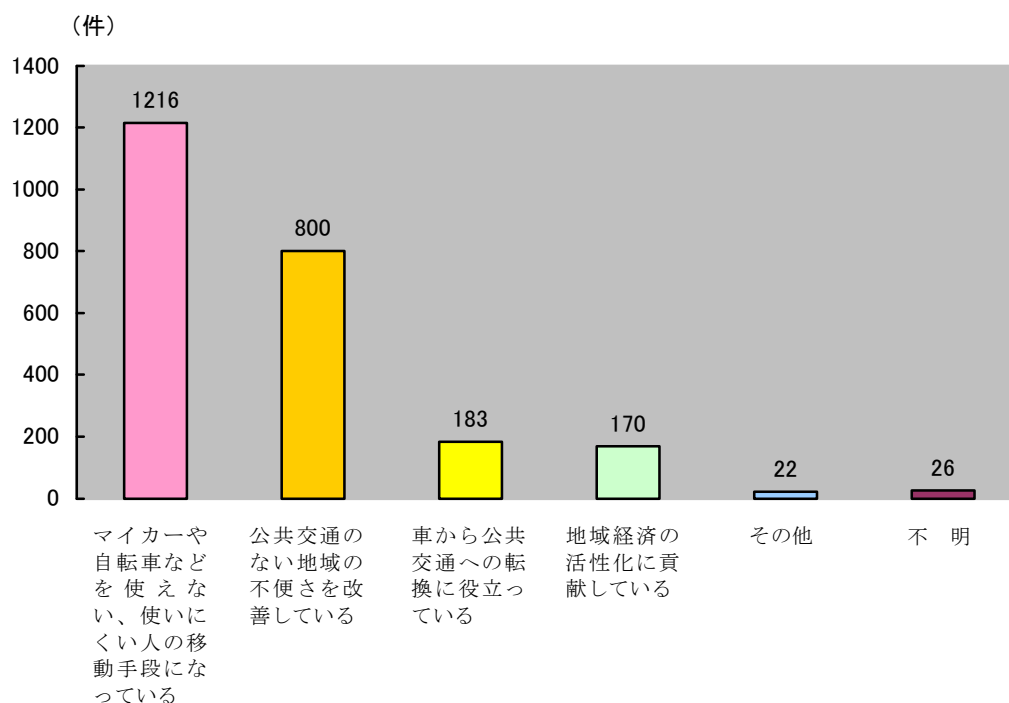


その他の意見としては、「経営改善をしつつ継続・拡大すべきである」、「現在の問題点を改善し、情報提供しながら続けるべきである」、「まずは山口、小郡、防府の大動脈を整備し、枝線を充実させる」、「利用率の多いルートを運行する」、「継続しても、乗る人は増えるとは思えない」などがあつた。

(4) 「継続」あるいは「拡大」を希望する理由 …問10 (複数回答可)

(3)で「現在のまま継続すべきと思う」あるいは「公共交通の不便な地域に拡大すべきと思う」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「マイカーや自転車などを使えない、使いにくい人の移動手段になっている」と回答した人が79.8%と最も多かった。これを年代別に見ると、40歳代が最も多く、次いで30歳代となるなど、利用頻度の少ない年代で高い傾向にあった。

また、次に多い回答は、「公共交通のない地域の不便さを改善している」であり、交通弱者のための移動手段として継続・拡大を望んでいることがわかる。

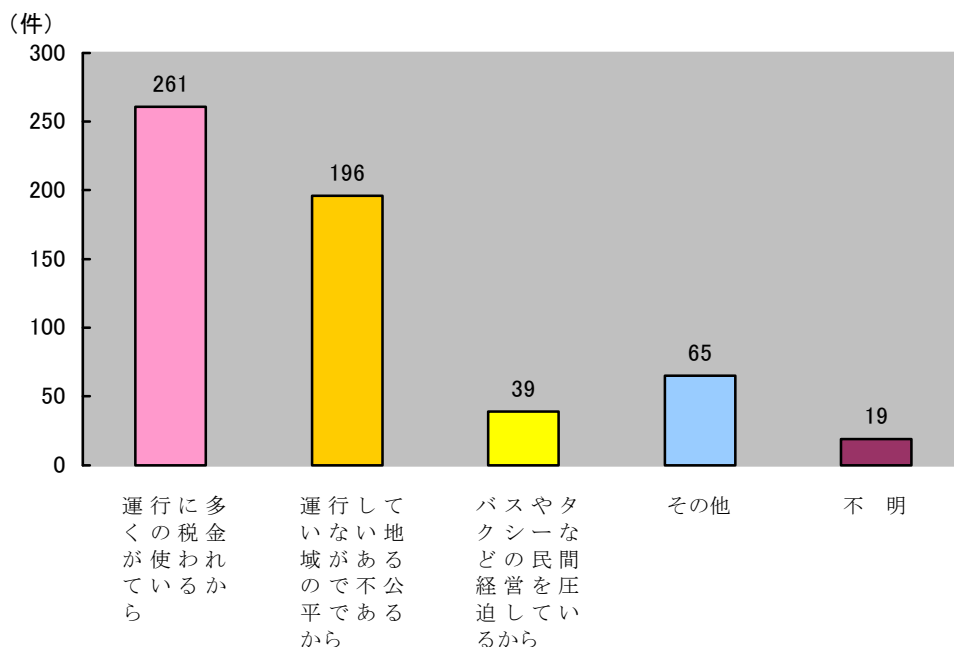


その他の意見としては、「高齢者の方に社会参画を促すことにより地域の活性化が図れる」、「公共交通がないと高齢者が運転し続けて危ない」、「高齢者の生きがい対策になる」、「今は運転しているが、そのうち出来なくなるから、公共交通が必要である」、「人気のない場所での一人歩きによる事件防止になる」、「小学生が通学に使っている」、「中核都市を目指す市として公営バスは必要である」などがあつた。

(5) 「中止」あるいは「経営改善」を希望する理由 …問11 (複数回答可)

(3) で「運行を止めるべきだと思う」あるいは「経営改善すべきと思う」と回答した人は、全体の2割程度にとどまったが、その理由を尋ねたところ、「運行に多くの税金が使われているから」と回答した人が最も多く、次いで「運行していない地域があるので不公平であるから」となった。

この傾向を地域別で見ると、市が行っているバスの運行がない地域の一部(仁保、宮野、陶、鑄銭司、秋穂)では「運行していない地域があるので不公平であるから」という回答が最も多く、地域差による不満があることがわかる。



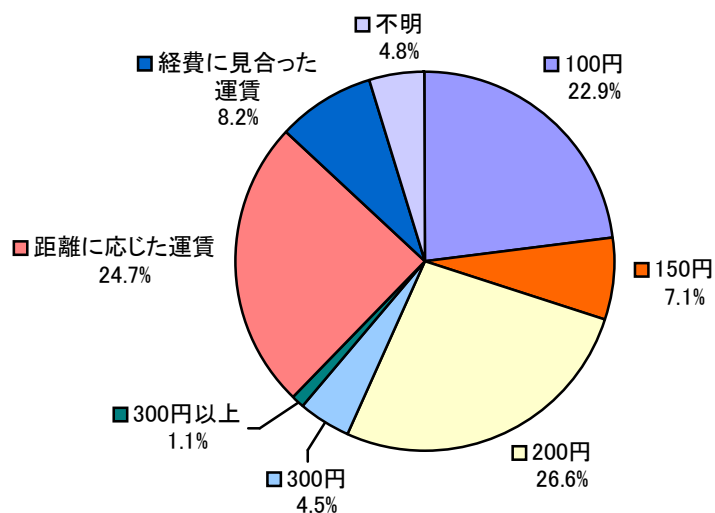
その他の意見としては、「運賃や経路など経営に納得いかない部分がある」、「高齢者へのタクシー補助や乗合タクシーなど別の方法を取る」、「効率的に運行していない」、「利用が極めて少ない」、「運賃収入の割合が少なすぎる」、「経営努力が不足しているから」、「全ての市民へのサービス提供は無理なので」、「運行への理解と納得には啓蒙が必要」、「廃止してもそんなに不便を感じないので」、「目的地まで行くのに時間がかかる」などがあつた。

(6) 望ましい運賃 …問12

市が運行しているバスの望ましい運賃としては、「200円」と回答する人が26.6%と最も多く、次いで「距離に応じた運賃」、「100円」の順となった。

これを地域別に見ると、下表のとおり、それぞれの地域で運行しているバスの運賃とほぼ一致した。

また、年代別に見ると、20歳～60歳代の年代では「200円」が最も多く、15～19歳代と70歳代以上の年代では「100円」が最も多かった。



	行政が運行しているバスの名称	基本運賃 (※)	最も多かった回答
山口地域	コミュニティバス	200円	200円
小郡地域	コミュニティバス (川西ルートの一部)	200円	200円
秋穂地域	—	—	距離に応じた運賃
阿知須地域	地域バス	100円	100円
徳地地域	生活バス	距離に応じた運賃 (一部区間100円)	距離に応じた運賃

※全てのバスについて、70歳以上の人は1乗車100円。障がいのある方は程度に応じて無料もしくは半額。

(7) 運行を維持・拡大するためのアイデア等（抜粋、要約） …問13

① 採算性の向上に関すること

- ・通勤通学時など、利用が見込まれる時間帯の便数を増やし、利用が少ない時間帯を減らす。
- ・利用者の少ない時間帯は、バス車両を小型化する。
- ・小回りのできるタクシーなど車両を小型化して増便する。
- ・バス車両を小型化して経費を削減する。
- ・バスの車体やバス停に広告を採り入れ、広告収入を得る。
- ・商品も運んで手数料収入を得る。
- ・入札を実施する。
- ・県外からの参入を含め、入札で料金やサービス等の斬新なアイデアを出してもらう。
- ・近距離は100円で良いが、遠距離は距離に応じて運賃を上げる。
- ・他に無駄な所で使っている税金を回せば、公共交通が充実できる。

② 利便性の向上に関すること

- ・バス停を増やす。
- ・どこでも自由に乗り降りできるようにする。
- ・バス停を減らし、スピードアップする。
- ・目的地まで行くのに時間がかかり過ぎなので、経路を整理すべきである。
- ・利用者の目的を調査してルートを決める。
- ・商店街付近のバス停に貸自転車を置く。
- ・自転車を車内に持ち込めるようにする。
- ・鉄道との連絡を良くする。
- ・運行ルートに観光地を入れて観光客にも利用出来るようにする。
- ・ベビーカーのスペースを設ける。
- ・ペットも乗せられるようにする。
- ・乗り放題の乗車券を作る。
- ・JRとバスとの共通乗車券を発行する。
- ・乗車がしやすいように段差を少なくする。

③ 情報提供に関すること

- ・ルート図、時刻表をわかりやすく（ノートタイプのようにコンパクトなもの）し、家庭に配布する。
- ・アピールが足りない。運行情報をもっと広報する。

④ 新たな事業の提案

- ・バスとタクシー双方の良い所を合わせた交通システム(乗合タクシーなど)をつくる。
- ・スクールバスに一般人も同乗できるようにする。
- ・子供の描いた絵や地域行事を車内に掲載したり、乗車ごとにスタンプを押し貯まったら何か貰えるなど、バスを身近なものとする。
- ・年1回市報に無料チケットをつけて配付し、試乗してもらう。
- ・利用者が少ないのなら、バスを廃止して「地域タクシー」のようなものを導入する。
- ・定期的に各地域が利用計画を提案し、利用者の見込める地域でのみ運行する。
- ・5人以上の乗車の申し込みがあれば運行できる自由運行方式にする。
- ・コミュニティバスと地域バスが接近している地区では、相互乗り入れなど連携した運行とする。
- ・画一的な運行でなく、利用の少ない地域では予約利用を可能とする。
- ・コミュニティバスと民間バスを乗り継ぎ可能にする。
- ・高齢者が中心であれば、福祉タクシーへ変更する。

⑤ 市民の取り組みに関すること

- ・シルバー人材やボランティアを活用する。NPOを育成する。
- ・自治会等で協議し、必要性を把握することが大事である。運行地域からの出費も考え、お金を出しているからには利用しようというムードをつくる。

⑥ 行政の取り組みに関すること

- ・マイカーの増加を抑制しなかったこれまでの政策に問題がある。
- ・マイカーから公共交通への転換をもっと啓蒙すべきである。
- ・事業所、官公庁でノーマイカーデーを設定し、バスによる通勤を行う。
- ・官公庁が多いので、行政職員が率先して、公共交通を利用する。

⑦ 運行の廃止等に関すること

- ・利用が極端に少ないルートは、存続する必要があるか検討すべきである。
- ・貴重な税金を使い赤字を補てんするのはおかしい。
- ・一部の人や地区のために税金を使うのは反対であり、止めてもらいたい。
- ・市営バスで破綻して、コミュニティバスをやっているのはおかしい。
- ・これだけ多くの財政投入をするのであれば、他により効果の得られる方法があると思う。

5 公共交通に対する意見・提案（抜粋、要約）

- ・ JRは路線が少ないので、活用しにくい。バス、タクシーは、距離と値段のバランスが悪いと思う。
- ・ バスの利用を増やすには、JR並みの安い運賃になればと思う。
- ・ 駐車場代と比べてバス代が安いので、家の近くで乗れたらすごく利用すると思う。1時間に4本くらいあれば安心して買物ができる。
- ・ パークアンドライドのシステムづくりを検討して欲しい。
- ・ 山口線を利用しているが、マイカーの駐車場が少なくて困る。
- ・ 終電・終バスが早すぎて、利用できない。
- ・ 低床バスやリフト付きバスを普及する。利用したくても利用できない人がいるのなら、そこを見つめ直す良い機会になると思う。
- ・ 段差が多いので、電車やバスを利用する機会が減ってしまいがちである。
- ・ バス停に照明がないので、夜は時刻表が見えずバスを待つのが怖い。
- ・ 案内板が時々使う人から見ると非常にわかりづらいので、敬遠してしまう。
- ・ バス停、時刻、どのバスでどこへ行くのか、よくわからないので乗れない。ルート図や時刻表が簡単に手に入ると良い。
- ・ チャイルドシートを付けたタクシーがあると助かる。
- ・ タクシードライバー、バス運転手のマナーアップを望む。
- ・ 山口は車のない人にとって不便なところである。高齢者や車の無い方の為にも、コミュニティバスの存続を願う。
- ・ 公共交通を使いたいと思っている人のニーズを引き出すことが重要である。
- ・ 交通不便地域で日常生活を快適にするには、その地域住民の意識改革が必要と思う。地域でバスの活用運動を行い、それに助成してはどうか。
- ・ 公共交通は地域住民にとって重要な交通手段である。市が運営する交通は、これらを補完するものであり、採算が見込まれない部分と思う。従って基本的には独立採算は成り立たず、税金を投入することもやむを得ないと思う。
- ・ バスの乗客が少ないので、だんだん便数も減り、便利が悪くなるのではないかと常に心配している。街の活性化のため、環境を守るため、市民の足を守ろうという市民の声をどう取り上げていくかが問われていると思う。
- ・ 出かけた時にすぐに乗れるのが公共交通の条件と思う。現状のままでは不満足である。充実させるために広くみんなで考えるべきである。
- ・ 料金を少し考えると良いと思う。経営も大事だが、もう少し安くなると利用者が増えると思う。
- ・ 市がバス会社に補助を行う以上、少しでも一人でも多くの乗客を取り込むようにするべきである。
- ・ 地域格差、不公平感を無くして欲しい。

生活交通に関する市民アンケート調査票

平素から市政の推進につきまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたびのアンケート調査は、本市の公共交通の現状や今後の対応などについてのご意見をお伺いし、これからの交通政策の方向性を定める基礎資料とするために実施するものです。

本調査は、平成18年5月の住民基本台帳をもとに、15歳以上の市民の皆様から無作為に選ばせていただいた約5,000人の方を対象に実施いたしております。ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

また、アンケートの集計結果につきましては、市報等を通じて皆さまにお知らせする予定にしております。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力お願い申し上げます。

平成18年6月

山口市長 渡辺純忠

◇ ご記入にあたってのお願い

- ◎ この調査は、**封筒のあて名の方**にお願いします。
- ◎ この調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にお入れいただき、**6月23日(金曜日)**までにご投函いただきますようお願いいたします。
- ◎ ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

山口市都市整備部都市計画課 交通政策室（担当：原、渡辺、義永）

TEL 083-934-2729

FAX 083-934-2654

電子メール toshi@city.yamaguchi.lg.jp

以下の質問について、あてはまる番号に○を付けるか、必要な事項の記入をお願いします。

1 はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) 性別 □

1 男	2 女
-----	-----

(2) 年齢 □

1 15～19歳	2 20歳代	3 30歳代	4 40歳代
5 50歳代	6 60歳代	7 70歳代以上	

(3) 同居家族は（本人を含めて） □

1 1人	2 2人
3 3～4人	4 5人以上

(4) お住まいの地区は □

山口				
1 仁保	2 小鱈	3 大内	4 宮野	
5 大殿	6 白石	7 湯田	8 吉敷	
9 平川	10 大歳	11 陶	12 鑄銭司	
13 名田島	14 秋穂二島	15 嘉川	16 佐山	
17 小郡				
18 秋穂				
19 阿知須				
徳地				
20 堀	21 島地	22 八坂	23 柚木	24 串

(5) 就業・就学について □

1 常勤で就労	2 パート・非常勤で就労
3 自営業・自由業	4 家事労働（専業主婦など）
5 学生・予備校生	6 仕事をしていない

2 山口市の公共交通（バスや鉄道など）や移動手段などについておたずねします。

問1 買い物、通勤、通学など日常生活において、山口市の公共交通機関の便利さについて、どのように感じていますか。

1 満足	2 まあ満足	3 どちらとも言えない
4 やや不満	5 不満	6 わからない

* 不満と答えられた方で理由があればお書き下さい
()

問2 自宅から最寄りのバス停、またはJR駅までの距離はおよそどれくらいですか。

1 300m未満	2 300~500m	3 500~1,000m
4 1~2km	5 2km以上	6 わからない

問3 日ごろ、最もよく利用されている交通手段を、次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1 徒歩のみ	2 自転車	3 バイク	4 自分で運転する車
5 人に乗せてもらう車	6 バス	7 タクシー	8 JR鉄道
9 その他 ()			

3 日常生活に必要な公共交通の維持・確保についておたずねします。

問4 公共交通を維持・確保するために必要な費用の負担について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

1 利用する・しないに関わらず、地域全体で公共交通の維持を図るべきである →問5、問6へ
2 利用者の運賃で維持するべきであり、利用者が減少すればサービスの低下や路線の廃止もやむを得ない
3 その他 ()

(問4で「1」と回答された方におたずねします。)

問5 どのような理由で維持すべきと思いますか。該当するもの全てに○をつけてください。

1 自分あるいは家族が利用しているから
2 日ごろは使っていないなくても、使いたい時にあると便利だから
3 高齢者や学生には重要な交通手段だから
4 マイカー利用に比べて環境に対する負荷が少ないから
5 その他 ()

問6 地域全体で公共交通を維持していくには、どのような方法が望ましいとお考えですか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

1 既存の税金の使い道を変えることで不足分を補う
2 地域(沿線の住民や企業など)が一定の負担をして不足分を補う
3 地域の負担と税金を使って不足分を補う
4 その他 ()

4 山口市が行っているバスの運行についておたずねします。

問7 市が行っているバス（コミュニティバス・地域バス・生活バス）を知っていますか、または乗ったことがありますか。

- 1 乗ったことはないが、知っている
- 2 よく乗っている → 問8へ
- 3 乗ったことがある → 問8へ
- 4 このアンケート調査で初めて知った

問8 問7で「2」または「3」と回答された方に、利用されたことがあるバスの種類をおたずねします。該当するもの全てに○を付けてください。

- 1 コミュニティバス（吉敷・湯田ルート、大内ルート、川西ルート）
- 2 地域バス（阿知須地域）
- 3 生活バス（徳地地域）

問9 市が行っているバスの運行について、「山口市が行っているバス事業の概要」（別紙をご参照ください）などを参考にして、あなたのご意見をおたずねします。1つだけ選んで○を付けてください。

- 1 現在のまま継続すべきと思う → 問10へ
- 2 公共交通の不便な地域へ運行を拡大すべきと思う → 問10へ
- 3 経営改善すべきと思う → 問11へ
- 4 運行を止めるべきだと思う → 問11へ
- 5 その他（)

問10 問9で「1」または「2」と回答された方に、その理由をおたずねします。該当するもの全てに○を付けてください。

- 1 公共交通のない地域の不便さを改善している
- 2 マイカーや自転車などを使えない、使いにくい人の移動手段になっている
- 3 地域経済の活性化に貢献している
- 4 車から公共交通への転換に役立っている
- 5 その他（)

問11 問9で「3」または「4」と回答された方に、その理由をおたずねします。該当するもの全てに○を付けてください。

- 1 運行に多くの税金が使われているから
- 2 運行していない地域があるので不公平であるから
- 3 バスやタクシーなどの民間経営を圧迫しているから
- 4 その他（)

問12 市が運行しているバスの運賃について、1回の運賃をどの程度にすべきと思いますか。1つだけ選んで○を付けてください。

1 100円	2 150円	3 200円	4 300円
5 300円以上	6 距離に応じた運賃	7 経費に見合った運賃	

問13 現在、市の行っているバスの利用者は減少しており、運行経費に対する運賃収入の割合も低いものとなっています。運行を維持、拡大するにはどのようにすれば良いと思いますか。あなたのアイデア・お考え等ございましたらお書きください。

最後に、公共交通（鉄道、バス、タクシー）についてご意見、ご提案がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

山口市が行っているバス事業の概要

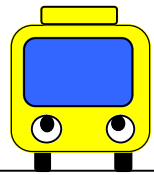
◆行政によるバスの運行について

市内には、民間交通機関の無い、もしくは不便な地域があります。

こうした地域にお住まいの高齢者や自動車を持っておられない方などが、日常生活で気軽に出かけられるよう、行政が主体となってバスを運行しています。

現在、山口市では合併以前の旧山口市、旧阿知須町、旧徳地町で運行していたバス事業をそのまま引き継ぎ、それぞれコミュニティバス、地域バス、生活バスという名称で運行中です。

これらのバスは、日常の交通手段のみならず、地域コミュニティや地域経済の活性化にも役立っています。また、交通混雑の緩和や地球温暖化の防止にも寄与できる可能性を持っています。しかし一方、利用者の減少や収入額不足による財政への影響、民間事業者との競合といった課題もあり、持続的な運行を続けるには、みんなで知恵を出し合っ、これらを解決していかなければなりません。



コミュニティバス

山口地域において、コミュニティバスの実証運行（実験的な運行）を行っています。

- ・運行ルート：吉敷・湯田ルート、大内ルート、川西ルートの3ルート
- ・基本運賃：200円

地域バス

阿知須地域において、地域内を循環するバスを運行しています。

- ・運行ルート：地域内循環、小山線の2ルート
- ・基本運賃：100円

生活バス

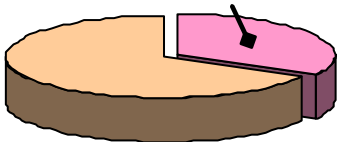
徳地地域において、全域を網羅するバスを運行しています。

- ・運行ルート：堀～柚野活性化センターなど10ルート
- ・基本運賃：距離に応じた運賃（一部の区間については100円）

市が行っているバス事業の運行経費に対する運賃収入の割合 (17年度)

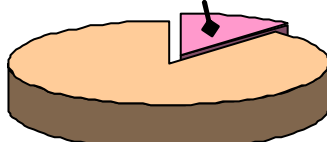
コミュニティバス
運行経費 約8,479万円

運賃収入
約2,806万円（約33%）



地域バス
運行経費 約534万円

運賃収入
約63万円（約12%）



生活バス
運行経費 約4,210万円

運賃収入
約443万円（約11%）

